

リキテックスと現代美術との  
かかわり合いをみつめなおし、  
新しい時代にふさわしい、  
独創的で力強い作品を  
広く募集します。



#### 一般部門

##### ■賞

リキテックス大賞:150万円 1名  
特別賞:30万円 若干名  
奨励賞:10万円及び賞品 10名  
入選:賞品50名程度

##### ■審査員

久里洋二(画家・アニメーション作家)  
留内兄助(画家・第一回リキテックス  
ビエンナーレ大賞受賞)  
水谷孝次(アートディレクター)  
タナカノリュキ(アーティスト)  
安珠(写真作家)  
グレン ブリル(アートアドバイザー)

##### ■入選作品展

東京展:2001年3月(予定)  
■第一次審査(スライドによる) /  
締切2000年9月1日(金)~  
2000年9月18日(月)到着分まで  
■第二次審査(原画による) /  
第一次審査入選者に通知 詳細はパンフ  
レット及び作品募集要項をご覧ください。

#### 学校部門(団体賞) **新設**

##### ■賞

優秀学校賞3校:受賞校の参加者全員と  
代表の先生に画材一式  
■第一次審査(サービスサイズプリント  
またはポラロイド写真による) /  
締切2000年9月1日(金)~  
2000年9月18日(月)到着分まで  
その他詳しくは募集要項をご覧ください。

募集要項ご希望の方は、下記事務局宛  
80円切手同封の上ご請求下さい。  
〒134-8576

東京都江戸川区臨海町3-6-3  
株式会社バニーコーポレーション  
リキテックス・ビエンナーレ事務局  
TEL.03-3877-5116

過去の大賞受賞作品はインターネット  
ホームページでご覧になれます。  
インターネットホームページ  
<http://bonny.comnet.co.jp/liquitex>

学校部門  
新設

# The 8<sup>th</sup> Liquitex Biennale

## 第8回 リキテックス・ビエンナーレ作品募集







[上十中]電話ボックス「ROMA2000」。D=Massimo d'Alessandro e Associati 技術=Trait d'Union 構造設備=PROSIDER ガラスのシルクスクリーンデザイン=Studio Grafico Alberto Lecaldano ガラス制作=CURVET アルミ接合備品制作=S.E.C.M.,Scionzier

# 電話ボックス「ROMA2000」

取材・文・写真/柳志野

TEXT & PHOTOGRAPHS by SHINO YANAGI

from ROMA



曲面ガラスが使われている初期の案

昨年末のサンピエトロ寺院がライトアップされた夜、近くのアパートが全館停電してしまつた。その停電の間に、ぼつかりと明るく目立っていたのが、この電話ボックス「ROMA2000」。ローマの史跡美術館が、電話会社のテレコムに、これまでの公衆電話が歴史的な街並みに似合わないことを危惧して要請し続けた結果、一九九六年初頭より二〇〇〇年を目標に、歴史的な景観地区に設置するための新たな電話ボックス製作のプロジェクトが生まれた。

新しいデザインに求められたものは透明性。史跡とも言える街並みにしっくりくる、限りなくさりげない存在でなければならぬ。計画初期段階からガラスの新技术が注目され、テレコムはインダストリアルデザインを手がけるローマ大学教授のダレツサンドロの事務所依頼した。初期の案では、側面を曲面ガラスで覆うものだったが、これだとガラスの一部が破損した場合、連鎖的に割れ、中にいる人に危険がおよぶ。独立したガラス同士

士の接合なら、全てが壊れる可能性は低く、安全性が高いという事で現在の形となった。また接続部の形状や、ガラスの紫外線透過率など、さまざまな試行錯誤が繰り返された。屋根のガラスは日光の熱を遮るよう小さな窓柄を入れ、側面のガラスはより濃い緑色になっている。何枚も重ねることで、透過性に反射性が入り交じり、神秘的な表情も生まれた。計画開始から約三年の月日を経た昨年十一月から、ローマの歴史中心地区の広場などに設置され始めている。

「かれこれ三年もこれに関わり続けたが、結果としてなかなかポジティブなものができなかつた」と、インタビュに答えたデザイン事務所のスタッフは満足げだ。全四十六個中、ローマには三十四個、ミラノやベネチアなどの他都市にも配置される。ベネチアエビエンナレにも出品予定だと言う。透明という条件をクリアして生まれたこの電話ボックス「ROMA2000」。ここではコミュニケーションの距離の壁も透けるのだろうか。

# 生産や流通もデザインする

ロス・ミクブライドの新作「グリッド・ライト」

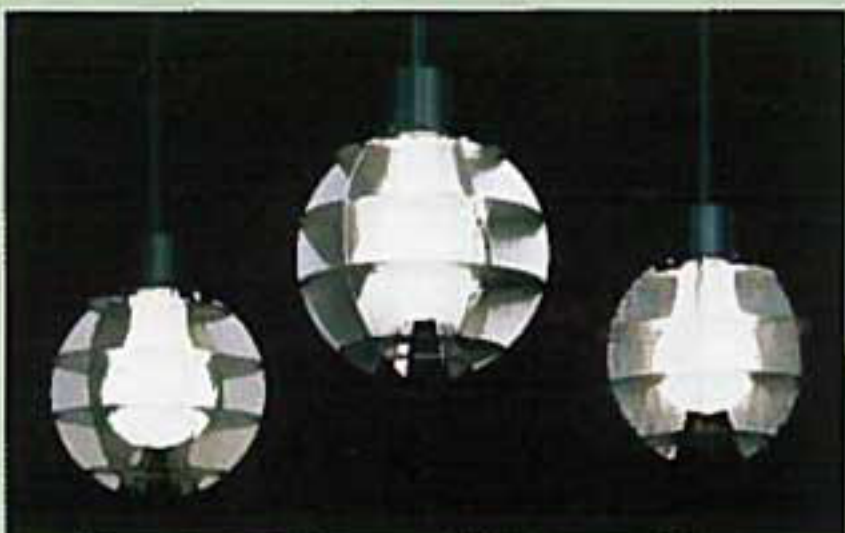
from TOKYO



「グリッド・ライト」はTRICO、E&Y、abode、Time&Style、Living MOTIFなどで販売。シェードのみ=3800円、ソケットとのセット=5200円、ミラー、ヘアライン、パンチメタルの3種類がある  
問い合わせ=Normal 渋谷区神宮前3-7-4-1F  
☎03-3470-6526 <http://www.normal.as>

インターネット・プロバイダー「BIGLOBE」のロゴデザインや、ベンホルダーなどの卓上小物を地面に沈んでいるかのように見せた「シンキング(沈む)シリーズ」、時計など、グラフィックやプロダクトデザインで幅広く活躍するロス・ミクブライドさん。彼が主宰する「NONE」より最新作「グリッド・ライト」が発売された。「グリッド・ライト」は裸電球を包み込むデザインで、ステンレス製の平面パーツを、切り込みに差し込んで組み立てるとシェードができる。接着剤やネジなどは必要としない。ミクブライドさんはグラフィックデザイナーとしての経験を生かし、プロダクトに専門的なアプローチを用いることで、専門職のつくる商品とは違うテイストを出せればと考えている。

また、平面パーツは梱包時にかさばらず、輸送コストが抑えられるといった利点も併せもつ。「グリッド・ライト」は製造コストを抑えるために生産は北米で行なっている。輸送コストは重要な問題であった。「自分の中にパッションをもってデザインすれば、理解してくれる人はいると思う。問題は商品化する時。自分のお金でつくるわけだから、流通や製造コストをシビアに意識する。だから初めに、商品をいくらで売るのが考えて、生産や流通も含めてデザインするんだ。」「グリッド・ライト」はその発想のユニークさだけではなく、ミクブライドさんのトータルデザインの成果でもある。「Normal」の試みは、生産や流通などの制約を理由にデザインを妥協するのではなく、むしろその制約を取り入れ、オリジナリティをだす発想の源としている。このような柔軟さは個人レベルの事業形態が得意とするところだ。「NONE」はその利点を最大限に生かしているのである。 [編集部]



「Normal」は10月にロンドンで開催される「100%デザインショー」への参加が決まり、「グリッド・ライト」も展示される予定だ。巻末にプレゼント情報あり!